

UJF-7151 plus II



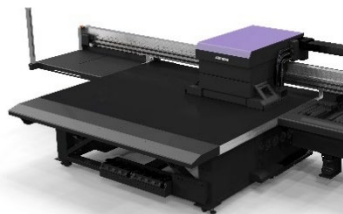
UJF-6042 MkII e



UJF-3042 MkII e



**... Spray-Jetting
DCF-605 PU**



JFX600-2513 NEW
JFX550-2513

TS100-1600



3DUJ-2207



UJV100-160



2022年3月期 連結業績

- ❖ 第2四半期・上期実績
- ❖ 通期予想
- ❖ 2021年度ミマキグループ経営方針 進捗状況

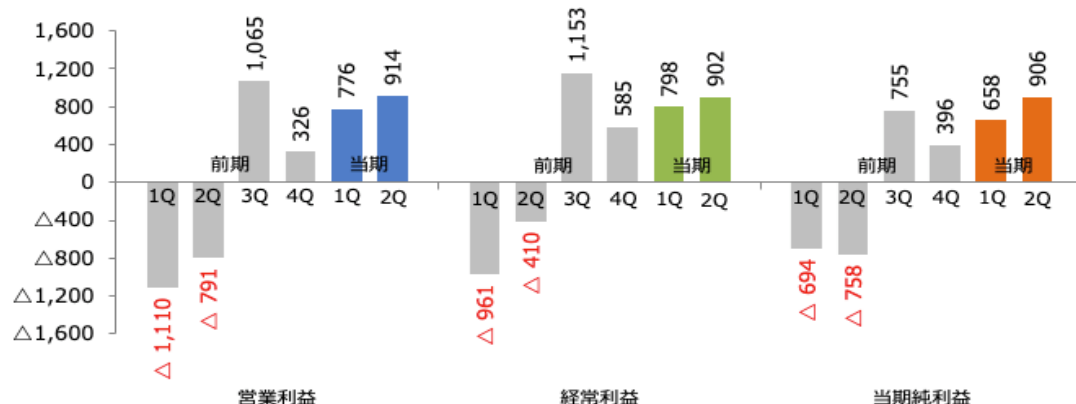
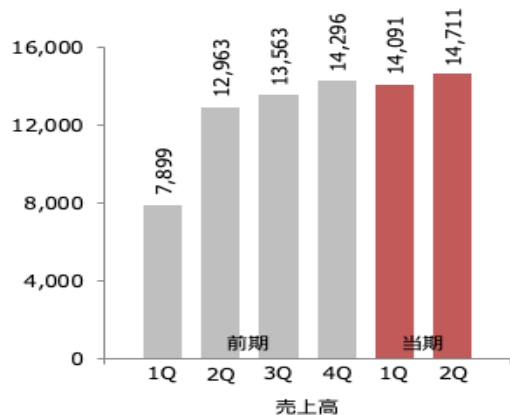
連結業績ハイライト (2022年3月期 2Q・上期実績)



(単位：百万円)		2021年3月期			
		2Q実績	売上高 比率	上期実績	売上高 比率
■ 売上高		12,963	-	20,862	-
■ 営業利益		△ 791	△ 6.1%	△ 1,902	△ 9.1%
■ 経常利益		△ 410	△ 3.2%	△ 1,372	△ 6.6%
■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益		△ 758	△ 5.9%	△ 1,453	△ 7.0%
為替レート (期中平均)	米ドル	106.22円	-	106.92円	-
	ユーロ	124.11円	-	121.29円	-

2Q実績		売上高 比率		2022年3月期		前年同期比増減		
						金額	率	率(除為替)
				28,803	-	7,941	38.1%	33.4%
				1,691	5.9%	3,593	-	-
				1,701	5.9%	3,073	-	-
				1,564	5.4%	3,018	-	-
				110.11円	-	2.88円	2.7%	-
				129.83円	-	9.60円	7.9%	-

※「収益認識に関する会計基準」等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間の売上高は96百万円増加、営業利益は50百万円減少、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ3百万円増加しています。詳しくは決算短信注記をご参照下さい。



引き続き世界経済の回復に伴う印刷需要や設備投資の増加に加え、為替の円安効果もあり、1Qと比べ伸び率は鈍化したものの、2Qも業績が大幅に伸長

■ 2Q売上高

- 前年同期比 1,748百万円の増収(+13%、内為替影響 +391百万円)、予想比上振れ、一昨年同期比 +5%
- 部品・原材料不足や輸送LT長期化の影響を受けたものの、市場の需要回復の機を捉え、既存製品の販売数量増加に加え、JV/UJV100-160やTS100-1600等の新製品も増収に寄与、保守部品やインクも伸長
- SG市場向けは経済活動の活発化に伴う設備投資及び印刷需要の増加により +16%、予想比上振れ
- IP市場向けは工業製品やノベルティグッズ等の需要増加により +18%、予想比上振れ
- TA市場向けはアパレル製品の需要回復で +33%、予想比は下振れ

■ 2Q営業利益

- 輸送費・原材料高騰の影響を受ける中、売上原価が、徹底した在庫削減のための費用や、コロナ禍影響による工場操業停止に伴う費用を計上した前年同期と比較し大幅改善。販管費は、顧客での製品稼働率上昇や新製品立上げに伴う製品補修費、計画休業解除に伴う人件費、「Mimaki V10」戦略に沿った新製品開発の研究開発費等が増加も、全体では増収効果・為替の円安効果もあり前年同期比 1,706百万円の増益(内為替影響 +84百万円)

■ 2Q末バランスシート

- 重点指標のCCC*は、機会損失の回避を最優先とし、輸送LT長期化や部品・原材料不足に対応した在庫確保のオペレーションに切り替えたことにより、6/末比では増加

2020/9/末:4.52月→ 12/末:3.70月→ 2021/3/末:3.60月→ 6/末:4.22月→ 9/末:4.35月

*CCC : Cash Conversion Cycle、今期から破産更生債権を含めたため、前期開示値から数値が変化

営業利益増減要因 (21/3期 上期 vs 22/3期 上期)



(単位：百万円)

【通貨別影響額】

USD/	106.92円 → 109.80円	+92
EUR/	121.29円 → 130.89円	+341
CNY/	15.26円 → 16.99円	△200
AUD/	73.28円 → 82.62円	+67
TRY/	15.22円 → 12.98円	△54
その他 (BRL、IDR、INR等)		+62
	合計	+308

【売上・原価・営業利益への為替影響】

売上高 979 - 売上原価 429 - 販管費 241 = 営業利益 308

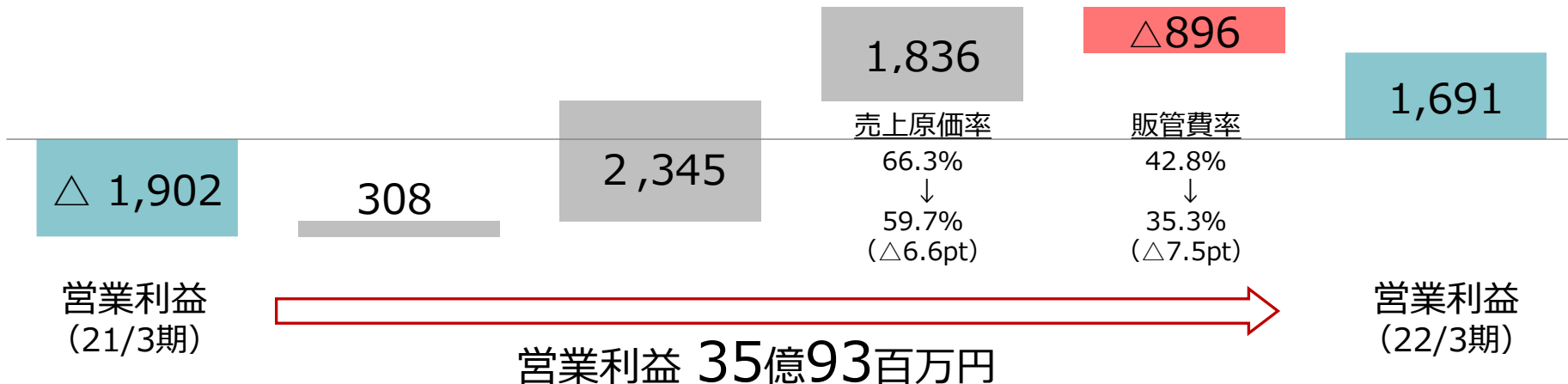
売上原価率増減の要因

21/3期上期原価率(66.3%)には構造改革に伴う原価率悪化分(1,401百万円:6.7%)が含まれるため、これを除く実態の原価率(為替レートを22/3期上期と同一とした場合:58.6%)との比較では、22/3期上期実績は1.1pt悪化 ⇒ 輸送費、部品・原材料高騰の影響

販管費増減の要因

製品補修費	355
研究開発費	310
人件費	229
減価償却費	△99
販促費	97
交通費	95
その他	△90
合計	896

- ① 為替影響 ② 売上高増減影響 ③ 売上原価率増減影響 ④ 販管費増減影響

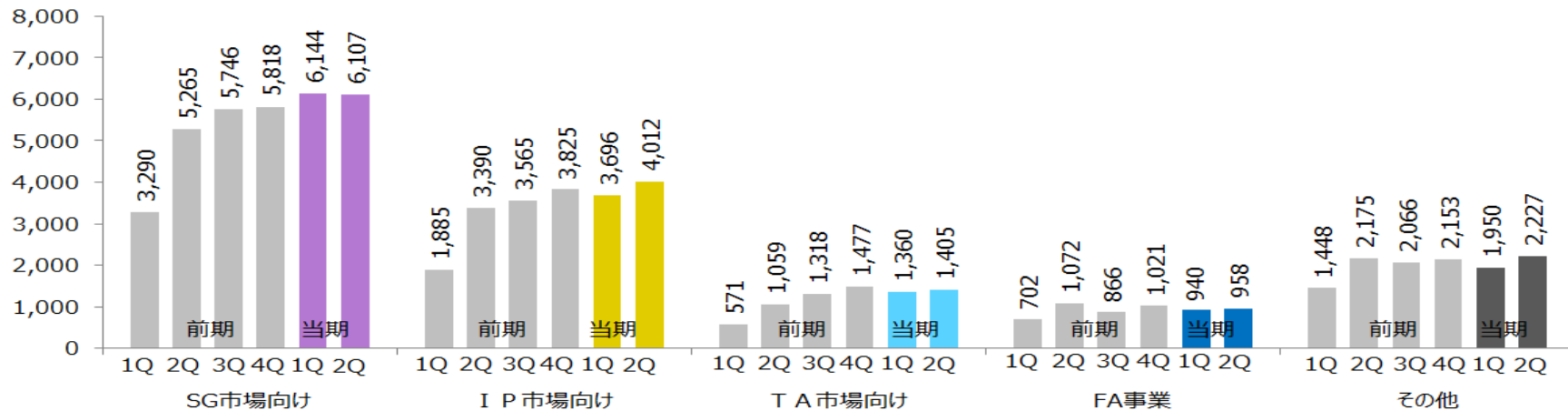


市場別売上高 (2022年3月期 2Q・上期実績)



(単位：百万円)	2021年3月期			
	2Q実績	構成比率	上期実績	構成比率
SG市場向け	5,265	40.6%	8,556	41.0%
IP市場向け	3,390	26.2%	5,275	25.3%
TA市場向け	1,059	8.2%	1,631	7.8%
FA事業	1,072	8.3%	1,775	8.5%
その他	2,175	16.8%	3,624	17.4%
合計	12,963	100.0%	20,862	100.0%

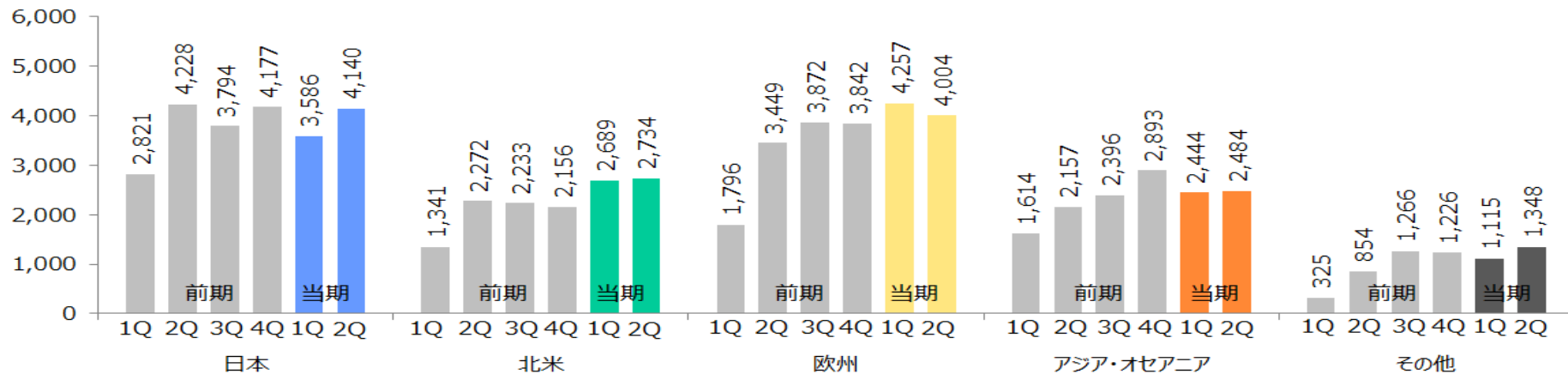
2Q実績	構成比率	上期実績	構成比率	前年同期比増減		
				金額	率	率(除為替)
				6,107	41.5%	12,252
4,012	27.3%	7,709	26.8%	2,433	46.1%	41.2%
1,405	9.6%	2,766	9.6%	1,135	69.6%	61.9%
958	6.5%	1,898	6.6%	122	6.9%	7.0%
2,227	15.1%	4,178	14.5%	553	15.3%	-
14,711	100.0%	28,803	100.0%	7,941	38.1%	33.4%



エリア別売上高 (2022年3月期 2Q・上期実績)



(単位：百万円)	2021年3月期				2022年3月期					
	2Q実績	構成比率	上期実績	構成比率	2Q実績	構成比率	上期実績	構成比率	前年同期比増減	
									金額	率
■ 日 本	4,228	32.6%	7,050	33.8%	4,140	28.1%	7,726	26.8%	676	9.6%
■ 北 米	2,272	17.5%	3,614	17.3%	2,734	18.6%	5,423	18.8%	1,809	50.1%
(現地通貨 / \$)	21.3M	-	33.8M	-	24.8M	-	49.3M	-	15.5M	46.1%
■ 欧 州	3,449	26.6%	5,246	25.1%	4,004	27.2%	8,261	28.7%	3,015	57.5%
(現地通貨 / €)	28.0M	-	43.2M	-	30.8M	-	63.1M	-	19.8M	45.9%
■ アジア・オセアニア	2,157	16.6%	3,772	18.1%	2,484	16.9%	4,929	17.1%	1,157	30.7%
■ そ の 他	854	6.6%	1,180	5.7%	1,348	9.2%	2,463	8.6%	1,283	108.7%
合 計	12,963	100.0%	20,862	100.0%	14,711	100.0%	28,803	100.0%	7,941	38.1%



要約貸借対照表 (2021年9月30日現在)

(単位：百万円)		2021年 3月31日	2021年 9月30日	増減額	増減率
資産の部	現金及び預金	10,839	9,117	△ 1,722	△15.9%
	受取手形及び売掛金(※1)	8,363	8,453	90	1.1%
	たな卸資産	17,919	20,732	2,812	15.7%
	その他流動資産	2,040	2,158	118	5.8%
	流動資産合計	39,163	40,461	1,298	3.3%
	有形固定資産	9,288	10,080	791	8.5%
	無形固定資産	491	423	△ 68	△13.8%
	投資その他の資産	1,895	2,375	479	25.3%
固定資産合計	11,675	12,879	1,203	10.3%	
合計	50,838	53,341	2,502	4.9%	
負債・純資産の部	支払手形及び買掛金(※1)	9,772	8,521	△ 1,250	△12.8%
	短期借入金(※2)	8,119	11,333	3,214	39.6%
	その他流動負債	7,077	7,455	377	5.3%
	流動負債合計	24,969	27,309	2,340	9.4%
	長期借入金	8,913	6,911	△ 2,001	△22.5%
	その他固定負債	742	1,440	697	93.9%
	固定負債合計	9,656	8,351	△ 1,304	△13.5%
	負債合計	34,625	35,661	1,036	3.0%
純資産合計	16,213	17,679	1,465	9.0%	
合計	50,838	53,341	2,502	4.9%	

❖ 資産の部 +2,502

- ・ **流動資産 (+1,298)**
→原材料及び貯蔵品並びに商品及び製品の増加等
- ・ **有形固定資産 (+791)**
→リース資産の増加等
- ・ **無形固定資産 (△68)**
→ソフトウェアの償却等

❖ 負債の部 +1,036

- ・ **流動負債 (+2,340)**
→支払手形及び買掛金 (△647)
電子記録債務 (△603)
→短期借入金 (+3,214)
- ・ **固定負債 (△1,304)**
→長期借入金 (△2,001)
→リース債務 (+684)

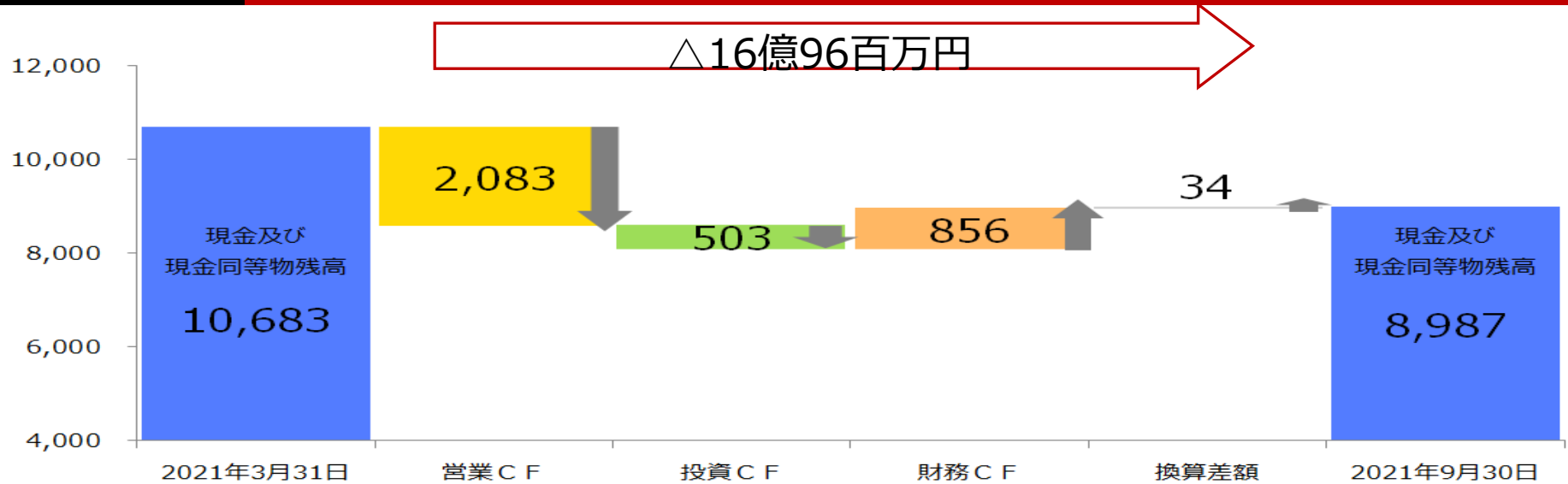
❖ 純資産の部 +1,465

- 利益剰余金 (+1,337)

(※1) 電子記録債権、電子記録債務を含む

(※2) 1年内返済予定長期借入金を含む

キャッシュ・フロー (2022年3月期 上期)



営業キャッシュ・フローの状況

EBITDA (※)	2,690
運転資金増加	△ 4,407
税金、利払等	△ 366
合計	△ 2,083

投資キャッシュ・フローの状況

固定資産の取得	△ 564
固定資産の売却	40
その他	20
合計	△ 503

財務キャッシュ・フローの状況

短・長期借入金収支	1,156
配当金支払	△ 207
その他	△ 92
合計	856

(※) 利払前、税払前、償却前の営業利益

2022年3月期 連結業績

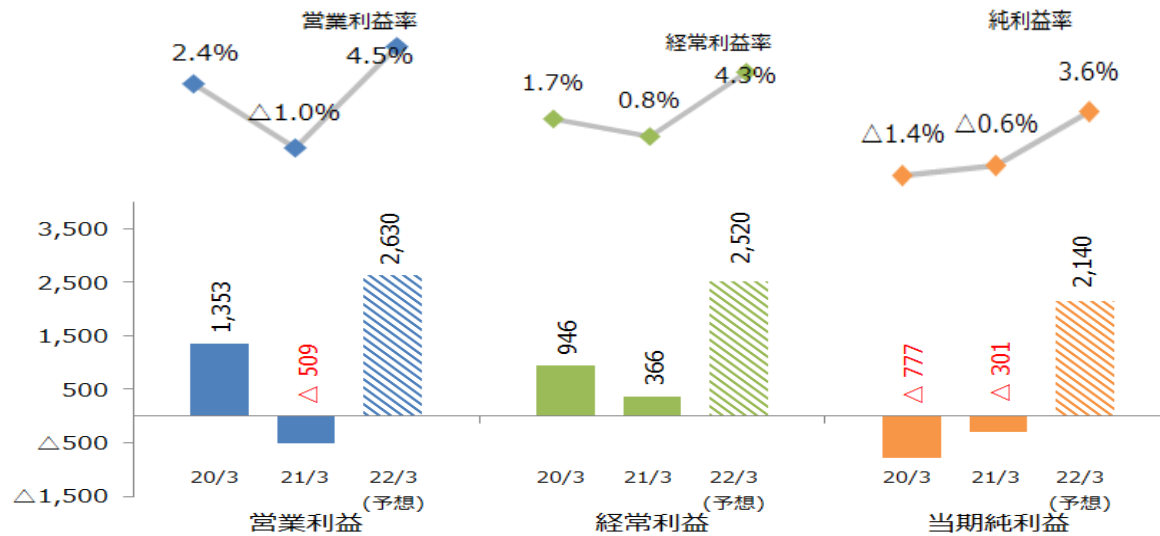
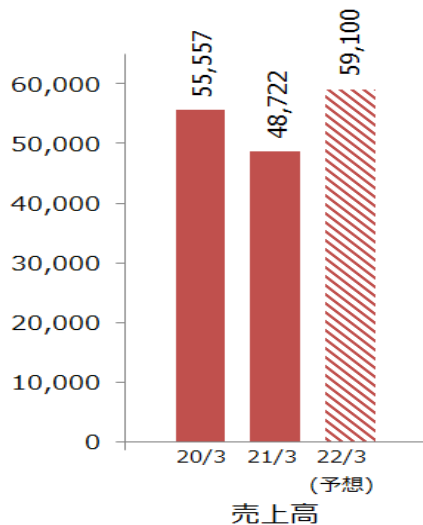
- ❖ 第2四半期・上期実績
- ❖ 通期予想
- ❖ 2021年度ミマキグループ経営方針 進捗状況

連結業績予想ハイライト (2022年3月期)



		2021年3月期	
(単位：百万円)		通期実績	売上高比率
■	売上高	48,722	-
■	営業利益	△ 509	△1.0%
■	経常利益	366	0.8%
■	親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 301	△0.6%
■	為替レート (期中平均)	米ドル 106.06円	-
		ユーロ 123.70円	-

2022年3月期											
上期実績	前回予想比 増減額	下期予想 (修正)	前年同期比 増減率	前回予想比 増減額	通期予想 (修正)	売上高 比率	前期比増減			前回予想比 増減額	
							金額	率	率(除為替)		
28,803	1,403	30,296	8.7%	896	59,100	-	10,377	21.3%	19.6%	2,300	
1,691	671	938	△32.6%	△ 471	2,630	4.5%	3,139	-	-	200	
1,701	771	818	△52.9%	△ 391	2,520	4.3%	2,153	587.8%	-	380	
1,564	814	575	△50.1%	△ 284	2,140	3.6%	2,441	-	-	530	
109.80円	2.56円	105.00円	△0.2%	0.00円	107.40円	-	1.34円	1.3%	-	1.28円	
130.89円	2.42円	125.00円	△0.9%	0.00円	127.95円	-	4.25円	3.4%	-	1.21円	



- 下期の連結業績は、引き続き世界経済の回復基調が継続する見通しであり、当社の販売市場においても需要の増加を見込む
- 一方で、世界的な部品・原材料不足や物流の混乱による影響は、下期を通じて一層厳しさを増すものと想定
- 当社においても、需要に対応するための製品供給面での部材調達難による制約や、輸送リードタイムの長期化等により、売上高への影響が見込まれるとともに、輸送費及び部品・原材料の高騰に伴う売上原価率の悪化等により、利益への影響が見込まれる
- 以上を踏まえ連結業績予想を見直した結果、下期及び通期連結業績予想を修正
- 「Mimaki V10」で定めた重点施策に取り組み、業績回復の足取りを確かなものとする
 - 新製品の市場投入と販売拡大
 - 市場環境や顧客ニーズの急激な変化を見据えた事業展開
 - 収益性向上に向けた基盤構築

営業利益増減要因 (21/3期実績 vs 22/3期予想)



(単位：百万円)

【通貨別影響額】

USD / 106.06円 → 107.40円	+93
EUR / 123.70円 → 127.95円	+347
CNY / 15.67円 → 16.75円	△198
AUD / 76.17円 → 79.81円	+49
TRY / 14.51円 → 13.59円	△43
その他 (BRL、IDR等)	+21
合計	270

<為替感応度 (1円/年)>

	売上高	営業利益
USD	126	69
EUR	122	81

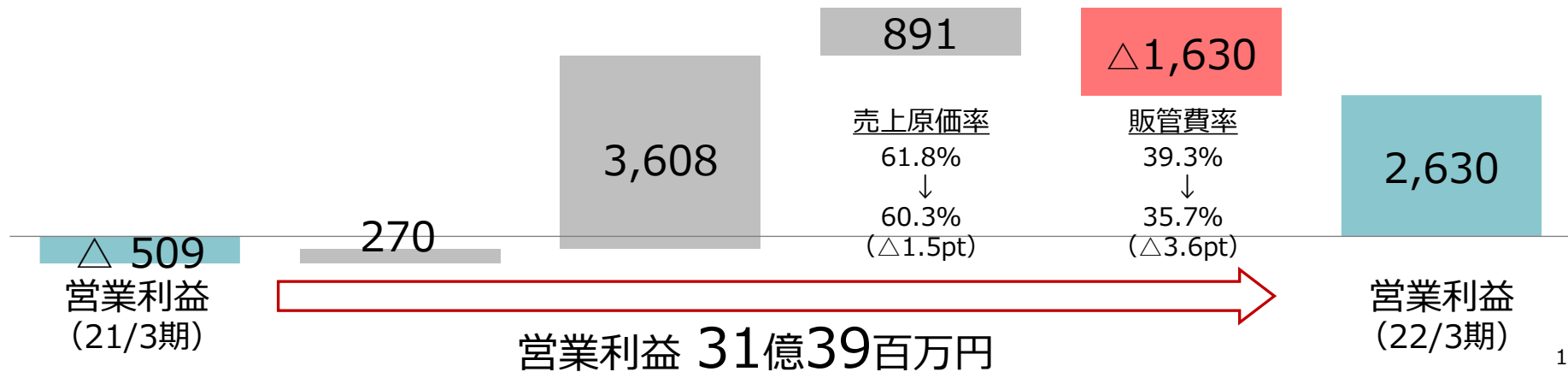
売上原価率増減の要因

21/3期の原価率(61.8%)には同上期構造改革に伴う原価率悪化分(1,401百万円: 2.9%)が含まれるため、これを除く実態の原価率(為替レートを22/3期予想レートと同一とした場合: 58.7%)との比較では、22/3期は1.6ptの悪化を見込む
⇒ 輸送費、部品・原材料高騰の影響等

【売上・原価・営業利益への為替影響】

売上高932 - 売上原価444 - 販管費216 = 営業利益270

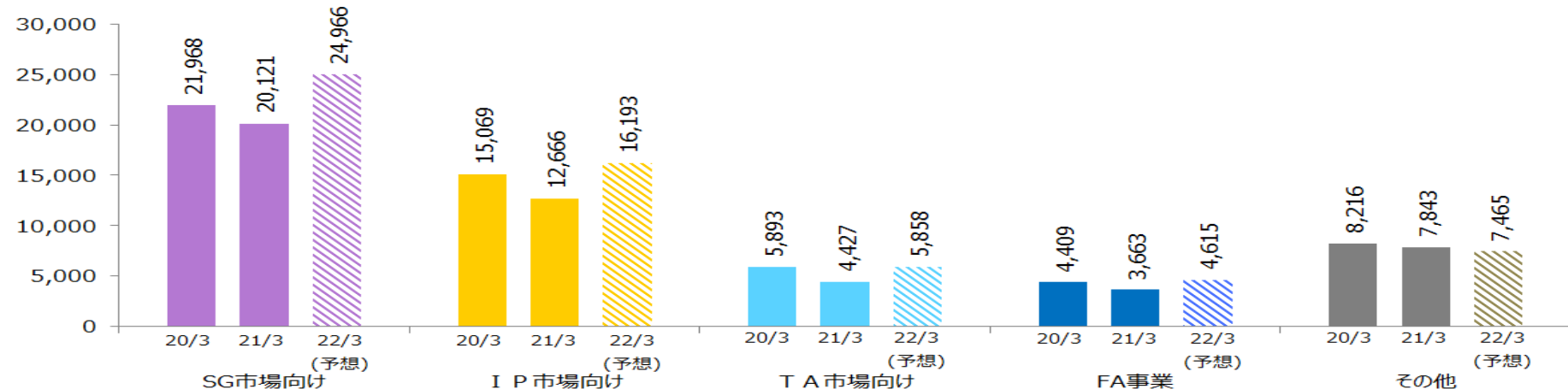
- ①為替影響 ②売上高増減影響 ③売上原価率増減影響 ④販管費増減影響



市場別売上高予想 (2022年3月期)



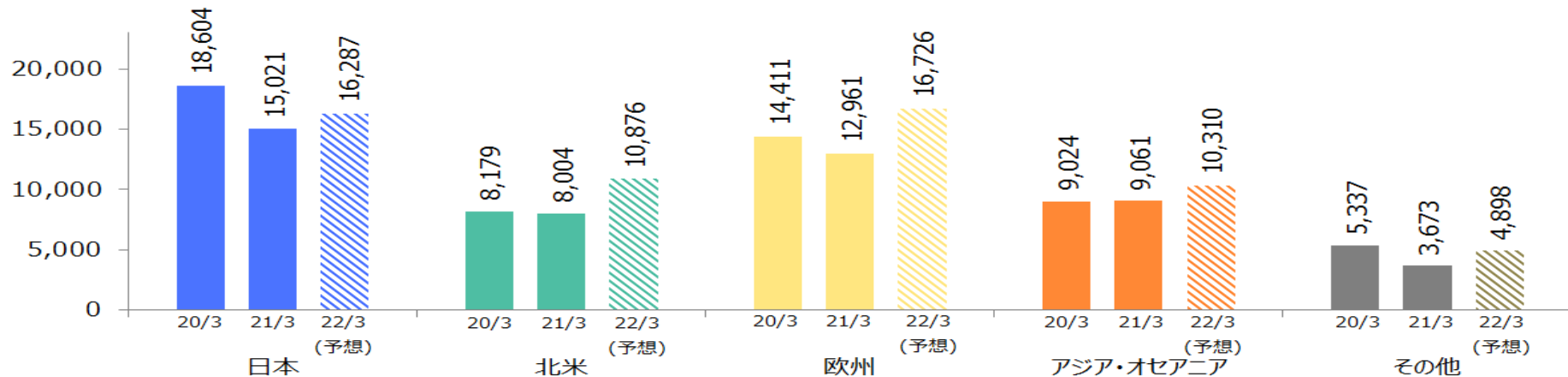
(単位: 百万円)	2021年3月期		2022年3月期										
	通期実績	構成比率	上期実績	前回予想比 増減額	下期予想 (修正)	前年同期比 増減率	前回予想比 増減額	通期予想 (修正)	前期比増減			構成比率	前回予想比 増減額
									金額	率	率(除為替)		
SG市場向け	20,121	41.3%	12,252	473	12,713	9.9%	962	24,966	4,845	24.1%	22.1%	42.2%	1,436
IP市場向け	12,666	26.0%	7,709	623	8,484	14.8%	97	16,193	3,526	27.8%	26.3%	27.4%	720
TA市場向け	4,427	9.1%	2,766	△ 90	3,092	10.6%	△ 343	5,858	1,430	32.3%	29.6%	9.9%	△ 433
FA事業	3,663	7.5%	1,898	△ 157	2,717	44.0%	287	4,615	952	26.0%	26.1%	7.8%	129
その他	7,843	16.1%	4,178	554	3,287	△22.1%	△ 108	7,465	△ 378	△4.8%	-	12.6%	446
合計	48,722	100.0%	28,803	1,403	30,296	8.7%	896	59,100	10,377	21.3%	19.6%	100.0%	2,300



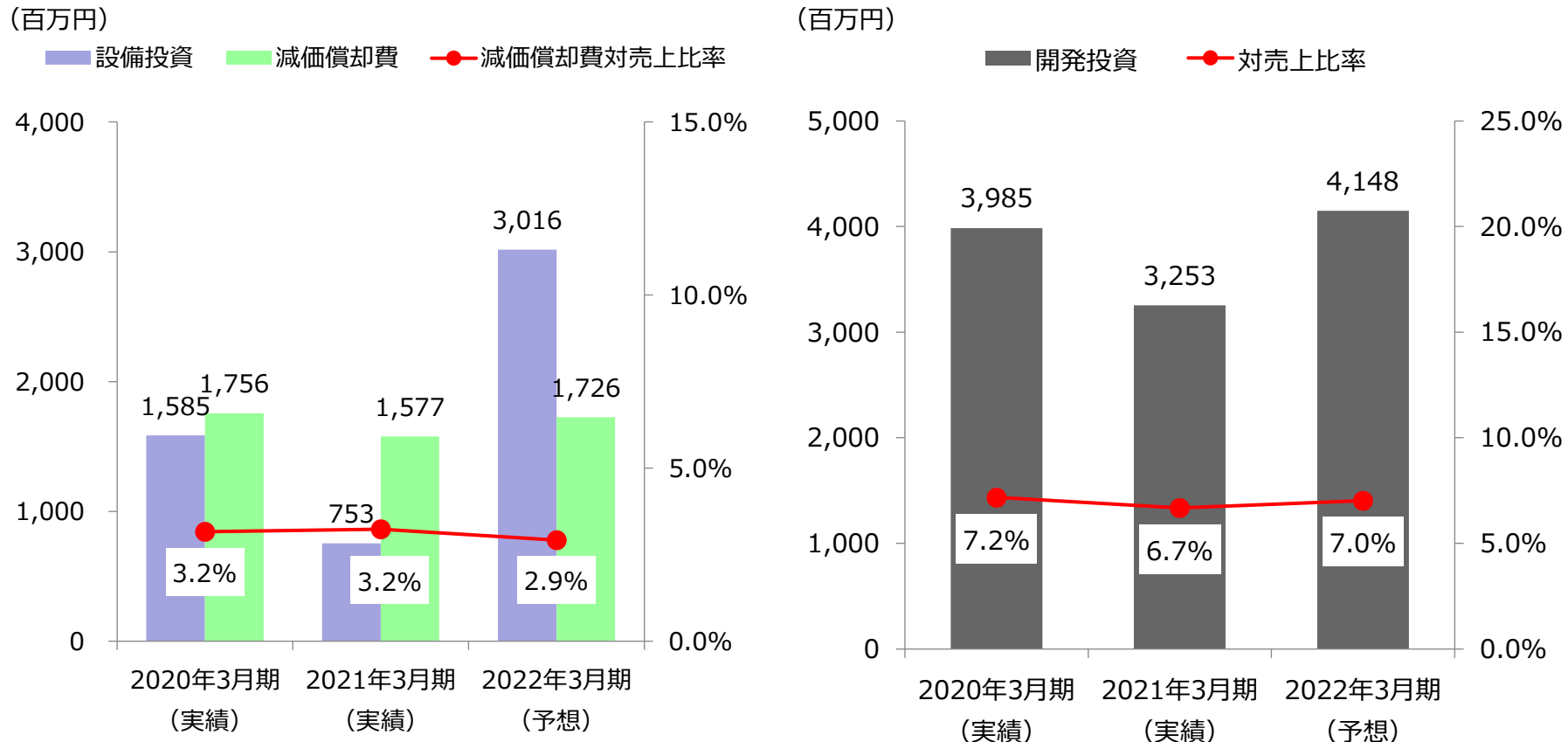
エリア別売上高予想 (2022年3月期)

(単位：百万円)		2021年3月期	
		通期実績	構成比率
■ 日本		15,021	30.8%
■ 北米		8,004	16.4%
	(現地通貨 / \$)	75.4M	-
■ 欧州		12,961	26.6%
	(現地通貨 / €)	104.7M	-
■ アジア・オセアニア		9,061	18.6%
■ その他		3,673	7.5%
合計		48,722	100.0%

2022年3月期												
上期実績	前回予想比 増減額	下期予想 (修正)	前年同期比 増減率	前回予想比 増減額	通期予想 (修正)	前期比増減		構成比率	前回予想比 増減額			
						金額	率					
7,726	△ 62	8,561	7.4%	△ 34	16,287	1,265	8.4%	27.6%	△ 97			
5,423	583	5,452	24.2%	783	10,876	2,871	35.9%	18.4%	1,367			
49.3M	4.2M	51.8M	24.5%	7.4M	101.2M	25.7M	34.2%	-	11.6M			
8,261	760	8,465	9.7%	210	16,726	3,764	29.0%	28.3%	970			
63.1M	4.8M	67.6M	9.9%	1.7M	130.7M	25.9M	24.8%	-	6.4M			
4,929	△ 97	5,381	1.7%	△ 233	10,310	1,248	13.8%	17.4%	△ 330			
2,463	220	2,435	△ 2.3%	170	4,898	1,225	33.4%	8.3%	390			
28,803	1,403	30,296	8.7%	896	59,100	10,377	21.3%	100.0%	2,300			



設備投資、減価償却、開発投資予想



※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。

株主還元

株主還元の方針

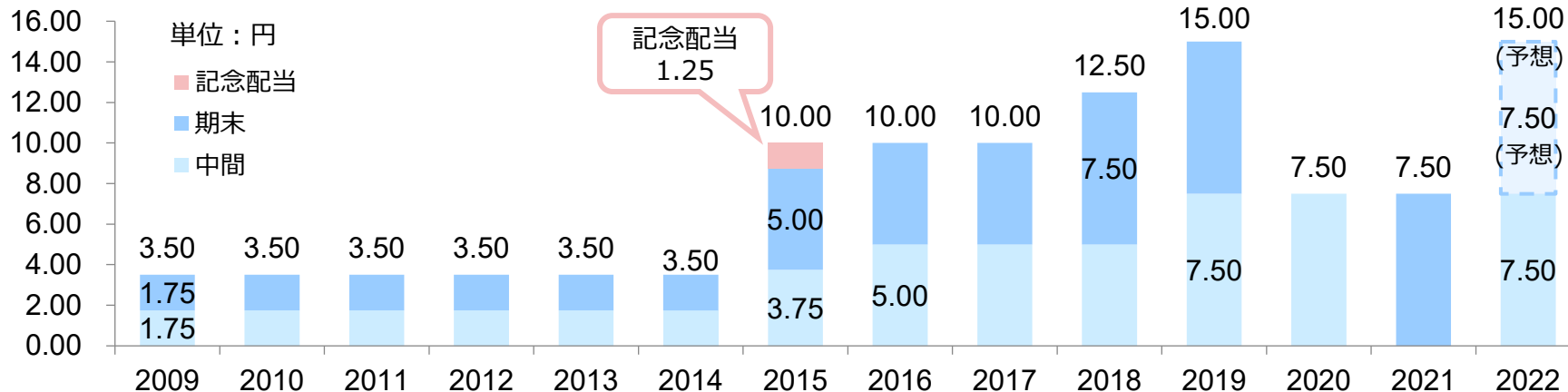
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、業績の成長に見合った成果の配分を安定的かつ継続的に行っていくことを基本方針としています

■ 2021年3月期 期末：7.5円に復配

2021年3月期中間期は無配としたものの、同下期の期間損益が黒字転換したこと、今後の事業見通し及び株主還元方針を総合的に勘案し、期末配当は7.5円に復配

■ 2022年3月期 中間：7.5円、 期末(予想)：7.5円

当期の事業見通し及び安定的・継続的な株主還元方針に基づき、年15.0円配当を予想



※ 2015年3月期の記念配当は東証一部上場に係るものであります

※ 2015年4月1日を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しております（分割前の配当金は訴求修正して表示）

2022年3月期 連結業績

- ❖ 第2四半期・上期実績
- ❖ 通期予想
- ❖ 2021年度ミマキグループ経営方針 進捗状況

- 新中長期成長戦略「Mimaki V10」で定めた目標：2025年度までに営業利益率10%の達成に向けた施策を着実に実行し、業績のV字回復を確実なものとする

Mimaki V10 重点施策

1. 「Mimaki V10」製品戦略に基づく新製品の市場投入と販売拡大
 2. 市場環境や顧客ニーズの急激な変化を見据えた事業展開
 3. 収益性向上に向けた基盤構築
- グループ社員を始め、地域やステークホルダーの皆様の安全確保と新型コロナウイルス感染症拡大抑止を最優先して取り組む

1. 「Mimaki V10」製品戦略に基づく新製品の市場投入と販売拡大

SG市場

- 競争優位を確保しているUV硬化型インクを生かした製品やソリューションの投入・販売活動を展開
- JV/UJV100-160シリーズでエントリー領域でのシェアを拡大
- 高付加価値領域での新製品投入による収益確保
- UVプリンタ特許技術の活用による競争優位性強化

上期の成果

- エントリー領域に投入したJV/UJV100-160シリーズの販売活動本格化と、その過程で上位機種への引き合い・商談も活発化し、市場回復の機会を的確に捕捉

今後の取組み

- JV/UJV-100シリーズのさらなる販売拡大
 - ・ 競合他社との差別化要因の訴求
 - ・ 高生産性、低インク消費量等の訴求
- 顧客であるサインージ印刷会社のビジネスに貢献できる、高付加価値新製品の市場投入



UJV100-160



UCJV300-130

1. 「Mimaki V10」製品戦略に基づく新製品の市場投入と販売拡大

IP市場

- 拡大するスマートファクトリーの流れを捉え、プリント/カット/コート工程の自動化による省人化・無人化を実現するDigital・Micro・Smart factory 戦略を推進
- JFX600/550-2513シリーズで大判フラットベッドUV市場でのシェアを拡大
- UVプリンタ特許技術の活用による競争優位性強化

上期の成果

- 主力UJFシリーズの新製品を発表、今冬より販売開始
 - ・ UJF-7151 plus II
 - ・ UJF-6042 MkII e、3042 MkII e
- 顧客に印刷工程自動化と高付加価値を提供するDCF-605PU スプレーコートセットを発表、10月販売開始



UJF-7151 plus II



デジタル コーティングマシン
DCF-605PU

今後の取組み

- 11月発売のJFX600/550-2513を含め、工業製品・ノベルティ・グッズ等を制作する顧客向けに、フルラインアップで販売を拡大
 - ・ 高印刷品質・高生産性による差別化の訴求
 - ・ 顧客が印刷する製品に提供可能な高付加価値の訴求
 - ・ プリント/カット/コート工程の自動化ソリューションの訴求



JFX600-2513

1. 「Mimaki V10」製品戦略に基づく新製品の市場投入と販売拡大

TA市場

- コロナ禍による市場環境変化を捉えたソリューションの提供
- TS100-1600でエントリー領域でのシェア拡大
- 高速機はTiger 1800B MkⅢでポジションを維持・拡大

上期の成果

- エントリーモデルTS100-1600の販売を立ち上げ、アパレル市場回復の機を捉えて売上高は急回復

今後の取組み

- TS100-1600の顧客価値訴求によるさらなる販売の拡大
- 高生産性・低コストを実現する新製品の市場投入



TS100-1600

3Dプリンティング 事業

- 3DUJ-2207により「3D フルカラー」造形の市場成長を加速させ、3Dを事業の柱に育成
- 3Dによる造形を容易にするためのソリューションの提供
- 3Dプリンタ販売チャネルの拡大

上期の成果

- 3DUJ-2207の販売開始、本格展開に向けチャネル・顧客・用途開拓を継続

今後の取組み

- 3DUJ-2207の販売活動本格化、フルカラー3D造形市場の創出を加速
- 3Dプリンタでの造形データを自動で最適化するクラウドソフトウェアサービスを市場投入、フルカラー3Dプリンタのさらなる普及に向けたソリューション提供を訴求



3DUJ-2207

2. 市場環境や顧客ニーズの急激な変化を見据えた事業展開

取組み

コロナ禍影響の長期化に伴う市場環境や顧客ニーズの変化を見据え、製品開発でInnovationを起こし、新規市場・新規アプリケーションを開拓する

■ 新たな技術開発へのチャレンジ

- ✓ 2018年度に子会社化したアルファデザインが保有する高粘度液体塗布ヘッド及び塗布コントロール技術と、当社が保有するXYZ軸高精度位置制御技術及び量産技術を融合させ、Print × Cut × Coatで新たな顧客価値を提供する、DCF-605PU スプレーコートセットを開発
- ✓ 今後も、同社保有のFA技術や実装技術等を活用し、デジタル・オンデマンドプリントソリューションの提供を実現する製品・サービスの技術開発を展開



■ 販売している製品の25%以上が3年以内に開発した製品とする

- ✓ プラットフォーム設計の推進により、今上期も高水準の新製品発表機種数を継続

新製品 発表機種数 推移	FY2017		FY2018		FY2019		FY2020		FY2021
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期
	3	1	2	1	5	2	1	6	6

2. 市場環境や顧客ニーズの急激な変化を見据えた事業展開

2021年度上期以降発表の新製品



UJF-6042MkII e **IP**

無限のオリジナリティを創成するフラットベッドUV-LED方式インクジェットプリンタ



IP UJF-7151 Plus II

驚異的なクオリティ、圧倒的なスピード、妥協のない多様性：ハイパフォーマンスフラットベッドUVインクジェットプリンタ



UJF-3042MkII e **IP**

無限のオリジナリティを創成するフラットベッドUV-LED方式インクジェットプリンタ

9月

FA DCF-605PU スプレーコートセット

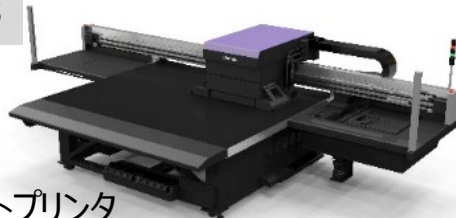
オンデマンド型スプレー方式による樹脂・金属表面への機能付与を可能にしたデジタルコーティングマシン



IP JFX550-2513

IP JFX600-2513

高速プリントで生産性を大幅に向上するLED-UV方式大型フラットベッドインクジェットプリンタ



2021年

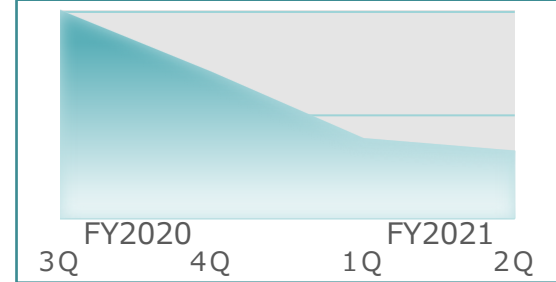
4月

3. 収益性向上に向けた基盤構築

取組み ① インクの品質改善

- 検査工程の見直し等の対応施策に注力し、昇華転写インクの不良率を1年間で1/3まで大幅に改善
- 下期は対象インクを拡大し、さらなる改善に取り組む

FY2020/3Qを100とした不良率推移



取組み ② 在庫コントロール

- 当面の期間は、世界的な部品・原材料の調達難及び輸送混乱に対応し、活発な需要に応え機会損失を最小化するオペレーションに切り替え
 - ✓ 基幹部品・原材料の調達と在庫の確保を最優先したオペレーションを実施
 - ✓ フレキシブルな生産計画と販売活動の連動による売上の確保
- グローバル在庫マネジメント再構築への取組みを推進
 - ✓ エリア在庫の効率化を目的としたNRI (Non-Resident Inventory) 倉庫の設置計画を策定、下期は設置に向けた準備を進め、来期以降での機動的な在庫マネジメントの確立につなげる

取組み ③ 中国市場を攻める

- 上期は、中国での新規販売チャネルの開拓は計画未達のため、戦略を見直し
- 下期は、新規販売チャネルの開拓と同時に、売れる仕組みづくり = 勝ちパターンを描き実践

取組み ④ CX(コーポレート・トランスフォーメーション)

- 固定費を圧縮し、事業体質を筋肉質化する活動は、着実に進捗
 - ✓ 売上高回復基調の中でも固定費・人件費の投入を極力抑え、コロナ禍以前の水準以下を維持
- CCC短縮を通じた資金効率の向上については、当面の期間取り組みを見直し

CCC	2020/6末	2020/9末	2020/12末	2021/3末	2021/6末	2021/9末
実績推移	7.91月	4.52月	3.70月	3.60月	4.22月	4.35月

- ✓ 調達最優先・機会損失回避のオペレーションへの転換により CCCは増加
- ✓ 当面の期間、CCCはベンチマークとせず、売掛債権回転期間の短縮、滞留債権・滞留在庫の削減等、基本的な活動に注力

取組み ⑤ 営業の改革

- ミマキの営業手法を革新する活動を推進
 - ✓ ミニ展から発展させ、地域特性に合ったWebによる「バーチャルミニ展」をグローバルで開催
 - 上期はバーチャルミニ展をグローバルで 約400回開催し、多くの案件を発掘
 - リアルミニ展（上期グローバルで 約450回開催）と個別デモでクロージングへ
 - ✓ SFA / CRMの導入に向けた準備と営業分析手法の検討を実施
 - ✓ インサイドセールスの機能充実により、顧客・チャンネルへのアプリケーション提案が進展
- コロナ禍環境における新しい顧客接点として、「Mimaki Global Innovation Days」を開催
 - ✓ 上期は6月2～4日に開催、下期は今冬に開催予定
 - ✓ 製品/市場/販売ノウハウ/導入事例等を、顧客/チャンネル/当社営業にお伝え
- 現状のSG主体のチャンネルに +αのチャンネル開拓が着実に進展、上期の大幅増収に寄与
 - ✓ コロナ禍でオフィス需要が低迷する事務機系代理店への商材提供により新規チャンネルが拡大
 - ✓ グローバルでのカッティングプロッタ拡販活動に伴い、新規取り扱いチャンネルの開拓が進展



本資料に関するお問合せ先

株式会社 **ミマキエンジニアリング**

I R 部

TEL (本社) 0268(80)0058

TEL (東京) 03(6362)4290

E-mail mimaki-ir@mimaki.com

〔本資料お取扱い上のご注意〕

本資料は、株式会社ミマキエンジニアリング（以下、当社）を理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。